

循環サイクルと人々の暮らし

創造を
想像する

■掛魚まつり

2月4日恒例の掛魚まつりが開催されました。今年は久方ぶりにタラを担いでの練り歩きも行われ、大ぶりのタラが金浦山神社に16本奉納されました。寒空の中、市内外から多くの方々が見学に訪れ、準備された熱々のタラ汁をおいしそうに食べて身体を温めていました。

近年、地球温暖化の影響による海水温の上昇などもあり、それまで獲れていたハタハタやサケが獲れなくなったり、逆にそれまで南方の海域で獲れていた魚が獲れるようになったりと、漁業を取り巻く環境が著しく変化してきています。そのような中ではあります

■海と日本プロジェクトin秋田県

日本財団が全国463カ所で展開している「海と日本プロジェクト」のうち、県内イベントの一つ「鳥海山が産み出す海産物！あきたアワビ調査隊」が、市内を会場に7月24、25日の2日間にわたり開催されました。参加者は県内の小学5、6年生児童20人で、鳥海山と海とのつながりによって生み出される恵みについて、アワビをテーマに学習しました。

鳥海山から流れ来るたくさんのミネラルと養分をたくわえた伏流水は豊かな海の源となり、たくさん魚介類を育んでくれます。これまでにかはでは

たくさんアワビや岩ガキが獲れました。しかしながら、近年は海水温の上昇や藻場の減少などにより、これらの漁獲量は減少しています。

調査隊の児童たちは、アワビの種苗生産施設を見学し、アワビや岩ガキの生息する岩場がフジツボや泥などで覆われ、エサとなる海藻が育ちにくくなっている岩ガキが岩に付きにくくなっていること、その対策として、漁師の人たちが岩盤を清掃するなど環境改善に取り組んでいることを学びました。

■KDDI地域共創室との意見交換

先日、KDDI地域共創室の方々と話をする機会がありました。KDDIはICT企業としての強みを生かし、地方自治体と一緒に地域課題の解決に取り組んでいます。いま全国で228のプロジェクトを実施しており、そのうちの一つに「舞鶴市丹後とり貝スマート漁業実証」があります。これは年により豊凶がある京ブランド「丹後とり貝」養殖の安定生産と増産にむけてICTを活用していくとする取り組みです。

話の中で「ハッ！」とさせられた部分があります。それは「貝類や藻類全般の減少の原因の一つに、海中のリンやカリウムといった栄養分の減少があげられていて、その理由として下水処理施設の普及によって人々の生活排水に含まれていたリンやカリウムといった栄養分が海に流れ込まなくなったことが考えられる」という内容です。

■人々の暮らしがもたらすもの

ひるがえってにかほ市を見たとき、近年のアワビや岩ガキの不漁の原因は海水温の上昇や藻場の減少だけでなく、同様に海中の栄養分の減少にも原因があり、あくまでも私見ですが、人々の健康を守るための取り組みが、もしかしたら予想外の副作用をもたらしていたのかもしれない。

いま市内では高齢化や後継者不足により離農する農家が増えています。それに伴い耕作放棄地もどんどん広がっています。かつてコメ作りの中で堆肥が使われ、その栄養分が海中に流れ込んでいた。人々の営みの中で出された栄養価の高い排出水が海藻類の成長に必要不可欠なものだったとすれば、里山を守ることは海を守ることになるという話に十分な説得力はあると思います。

もちろん下水処理など衛生環境を整備することはとても大切です。言いたいのは、私たちの暮らしもまさに自然の営みの一部であり、持続可能な循環型社会を実現するには関係のないと思われることにも気配りをしなければならないということです。

にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

